

河内・八尾の歴史

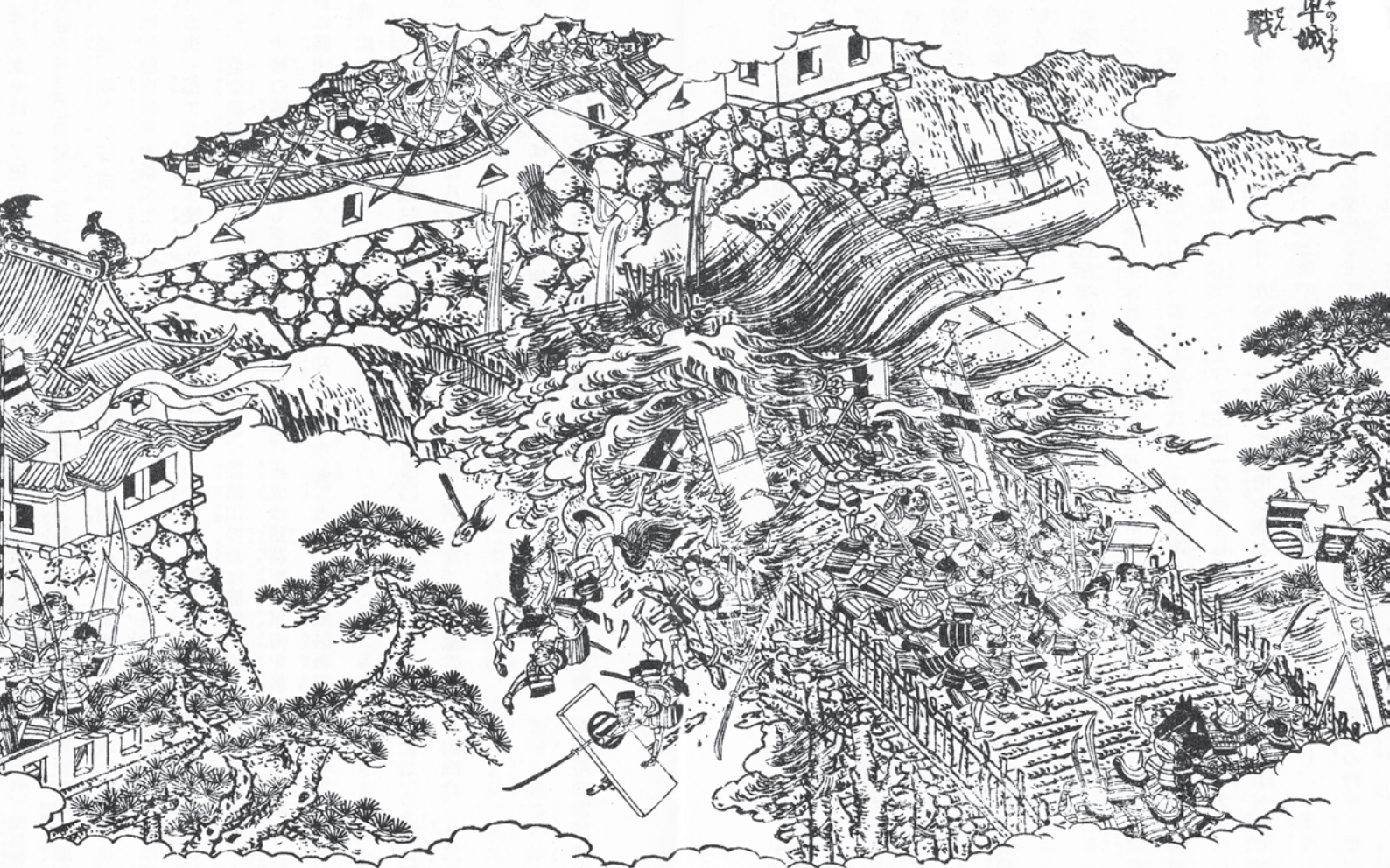
—室町時代～江戸時代—

と今東光

こん とう こう



- ・『天台院小史』～『河内史談』
- ・『東光太平記』
- ・『お吟さま』第36回直木賞受賞作品
- ・『生きるマンショ』
- ・『元禄の哀歓』～『現代の日本史』第16巻



令和7(2025)年

◎ 期間：9月14日(土)～3月9日(日)

◎ 開館時間：10:00～17:00

◎ 休館日：月曜日(祝日の場合は開館)・年末年始等

元弘2(1332)年 楠木軍は千早城(大阪府千早赤坂村)に籠城。敵が架けた梯に、油・火矢を使い焼き落し、幕府の大軍を撃退する。
(江戸時代に描かれた『河内名所図会』より)

直木賞作家が残した文芸と八尾の魅力を伝える

今東光 資料館

KON TŌKŌ MUSEUM

〒581-0003 八尾市本町2丁目2番8号

TEL.072 943 3810 https://www.city.yao.osaka.jp/soshiki/18-14-0-0-0_6.html

■近鉄大阪線「近鉄八尾駅」から 徒歩約7分

■JR 大和路線「八尾駅」から 徒歩約16分

■Osaka Metro(地下鉄)「八尾南駅」から近鉄バス利用「八尾市役所前」下車

入館無料
(八尾図書館3階)



ホームページ



YouTube



『東光太平記』全6巻

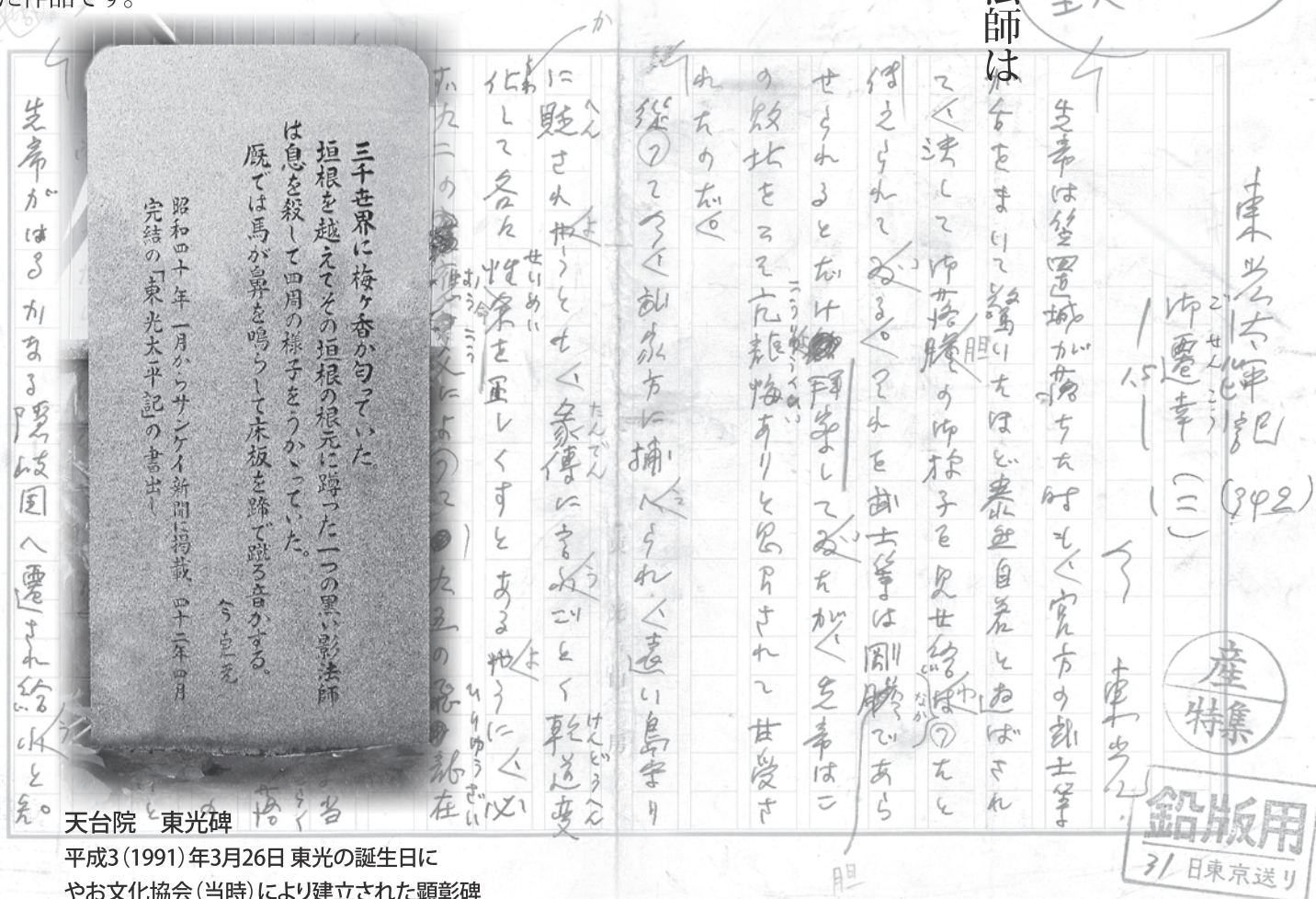
昭和40(1965)年1月から河内の武将楠木正成を書いた『東光太平記』を「産経新聞・夕刊」に連載、足かけ三年半に及んだ長編作品です。

単行本は昭和47年5月から順次刊行されました。

刊行のことばに「東光太平記の構想は僕が河内の小庵に移り住んだころから腹案が成っていた。歳月を経るに従って文献にない南朝の事蹟を少しずつ集録した。これは到底、短い期間に書けるものでないと思い肚裡に蔵して十年を闊した。しかるに偶然の機会が与えられサンケイ新聞の二百万の読者にまみえ、このたびは鹿島出版会から全六巻として出版されることになった。南朝のように敵に資料を湮滅させられた歴史は一大敗北史であって真実の相は求むべくもない。しかるに現実には攝津、河内、和泉に南朝は生きていたのである。こういう事実を知ってもらいたいと思う。歴史に興味がなく、資料に関心のない人も、物語には耳を傾けるものだ。文保から貞治まで人々はひたすら戦った。その五十年の秋こそは、われわれ日本人のものである。」と東光の万感の想いが込められた作品です。

三千世界の梅ヶ香が匂っていた。
垣根を越えて、その垣根の根元に蹲った一つの黒い影法師は
息を殺して四周の様子をうかがっていた。
厩では馬が鼻を鳴らして床板を蹄で蹴る音がする。

『東光太平記』より



天台院 東光碑

平成3(1991)年3月26日 東光の誕生日に
やお文化協会(当時)により建立された顕彰碑